

琉球大学学術リポジトリ

Malaria

prevalence,knowledge,perception,preventive and treatment behavior among military in Champasak and Attapeu,Lao PDR : a mixed methods study

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2020-07-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Vilay, Phoutnalong メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/46465

(様式第5-2号)

2019年 5月 27日

琉球大学大学院

保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏 名 福島 卓也

副査 氏 名 山城 哲

副査 氏 名 新城 正紀



学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名 保健学	氏名 VILAY Phoutnalong	学籍番号	■■■■■■■■■■		
指導教員名	小林 潤					
成績評価	学位論文	合格	不合格	最終試験	合格	不合格
論文題目	Malaria prevalence, knowledge, perception, preventive and treatment behavior among military in Champasak and Attapeu, Lao PDR: a mixed methods study.					
審査要旨（2000字以内）						
本論文は、ラオス人民民主共和国南部の2つの県で従軍する兵士を対象に、マラリア感染割合、マラリア感染に関する知識、認識、予防および治療行動を評価した研究である。313名の兵士を対象とした、主にリアルタイムPCR法によるマラリア感染調査で、感染割合が11.2%であり、内訳として <i>Plasmodium vivax</i> 単感染が82.9%を占め、感染者のうち無症候が97.1%であることを示した。また、インタビュー法による質的調査により、半数以上の兵士がマラリアがハマダラカ吸血により感染する知識を有していないこと、虫除けネット、蚊の駆散薬、蚊取り線香などの十分な蚊除け対策が取られていないことを明らかにした。さらにマラリア感染時には、医療機関の受診前に自身で抗菌剤、解熱鎮痛剤、などの伝統的治療法を施していることが判明した。マラリア感染予防のため、国によるマラリアコントロールプログラムで、十分に適切な健康教育、予防器具、医療施設での治療が提供されるべきと結んでいた。						
同国南部において、森林地帯で従軍する兵士がマラリアに感染する割合が高い事を明らかにした						

初めての論文であり、さらに国に対して予防対策の必要性を説く極めて価値の高い論文である。申請者は予備審査で指摘された論文にはない国への提言も示し、これは同国の保健医療および国力の向上に寄与することが期待される。

最終試験では予備審査時に指摘された医療コスト削減の可能性、マラリアの知識と感染陽性との関連、検査方法についての質問にも明確に答えることができ、口頭による学力を確認することができた。また本論文はすでに国際的学術誌である *Tropical Medicine and Health* に採択されている。

以上のことより、本審査会では VILAY Phoutnalong 氏の学位論文および最終試験を合格とした。

(次頁へ続く)